エピソード51
外国籍家庭の子どものお弁当がお菓子です。

なみちゃん
　小学校教師として25年以上の経験があります。エデュサポネットのファシリテータです。

COPYRIGHT © 2021 UEKI Katsumi, HOKKAIDO UNIVERSITY OF EDUCATION all rights reserved.

先生が出会った、外国籍の子どものことを
お話していただきます。

僕が４０代だった頃、今から15年以上
前のことです。勤務校の校区に工業製品の
工場ができて、ブラジルからたくさんの
家族が働きに来日しました。

勤務していた小学校にも、ブラジルから
きた子どもが４人入学することになりました。

学校は、外国籍の子どもたちを
どのように受け入れたのですか。

まず「困った」という気持ちが最初でした。
ブラジルってどんな言葉を話すのか、生活様式はどんななのか誰も知りませんでした。

ポルトガル語だということがわかり、
辞書を片手に、会話の練習をしました。

実際に、子どもたちが学校に
来た時の様子を教えてください。

子どもたちが学校に来るという日には、
玄関に挨拶の言葉を貼って迎えました。

僕の学級には、マリアさんという女の子が
来ました。不安だったのか、うつむいて
いましたが、笑顔のかわいい女の子でした。

学校に来てからの様子はどうでしたか。

辞書を片手の毎日が始まりました。言葉が通じず、お互いにストレスがたまっていくような気がしました。マリアさんのために何ができるのか、毎日考えていました。

子どもたちは言葉が通じなくても、身振り手振りで気持ちを伝えて遊んでいました。僕は、子どもたちってすごいと思いました。

マリアさんの保護者とも話しましたか。

辞書片手に、ご両親と面談をしました。
片言の日本語で「よろしくお願いします」
と何度も頭を下げて言われました。

両親が交代で２４時間働き、マリアさんが
寂しい思いをしていることもわかりました。

その後の様子を教えてください。

僕は、マリアさんにとって学校が楽しい場所になってほしいと思いました。

言葉が通じなくても一緒にできることを探しました。ブラジルの遊びも教えてもらって、みんなでやってみました。

文化の違いに戸惑うことなどは
ありませんでしたか。

午前中におやつを食べる習慣があり、
ビスケットを持ってきたり、遠足の時は
お弁当が理解できず、お菓子しか持って
こなかったりすることはありました。

今、考えると、お弁当のイラストや写真を
保護者に見てもらうと、お弁当を理解して
もらえたかなと思います。

その後に起こったことを話してください。

３か月程経った時、突然ブラジルから来た人全員が引っ越してしまったのです。労働条件や病気になった時の待遇が悪かったのだそうです。

せっかく日本に来てくれたのに、残念でした。せめてマリアさんにとって、学校がいい思い出になってくれるといいのだが…と思いました。

なみちゃんの一言

- 外国籍の子どもは就学義務の対象になっていません。国として様々な支援を行っていますが、言葉や文化の違い、生活の不安定さなど、置かれている環境は過酷とも言えます。
- 学校で何ができるのか、地域によっても違うかもしれませんが、子どもたちが互いの文化の違いを受け入れて、尊重し理解し合えることができるといいですね。

お・し・ま・い

イラスト　尾上樹里
（北海道教育大学 大学院生）

COPYRIGHT © 2021 UEKI Katsumi, HOKKAIDO UNIVERSITY OF EDUCATION all rights reserved.